

2011年（平成23年）11月3日（木）東奥日報に掲載

⑦「過剰なふれあい控えて」

大切なペットとずっと一緒にいるためには、ペットと飼い主がともに健康であることが大事です。しかし、愛するペットが原因で人も病気になることがあることを知っておかなければなりません。ペットから感染症がうつったために体調を壊し、愛するペットの世話ができなくなった、そんな事態にならないために飼い主が気をつけなければならないことがあります。



4年前の話ですが、県内の保健所に医師からオウム病患者の届出がありました。この患者はインコを飼っていましたが、インコが衰弱した後に自身も肺炎を患い医療機関を受診したのです。オウム病とは、主にオウムやインコなどの鳥類に感染する病気です。人に感染すると突然の高熱、咳等がでてインフルエンザのような症状となり肺炎を起こすこともあります。保健所の保健師

さんの聞き取り調査によると、この患者は普段からインコをとっても可愛がり、口移しで餌をあげていました。この行為がインコからオウム病が移った原因と考えられます。また、乾燥した糞の埃を吸い込むことによっても感染するので、鳥かご等を常に清潔に掃除することも大切です。

また、家の中で飼うことが多い子犬からも人に感染する病気があります。当センターで平成18年から19年に子犬の糞便を検査したところ、143頭中67頭に犬回虫卵が確認されました。この回虫卵が人の口から体の中に入ると、まれに、ふ化した幼虫が体の様々な場所に移動することがあります。移動した場所により肝臓の腫大や肺炎、視力障害、時には失明することもあります。子犬と遊んだ後は手をしっかり洗うこと、また、飼い犬は動物病院で検査をしてもらい、駆虫を必ず行うことが大事です。

私のペットは健康だから大丈夫、そんなことはありません。動物には症状が無くても人が感染する場合があります。普段から食べ物の口移しやキスといった濃厚なふれあいをしないこと、掃除を適切に行うこと、手洗いをしっかり行うことを心がけ、愛するペットとともに健康に暮らしましょう。